

テーマ：「ソーシャルキャピタルとこどもの健康」

テーマの背景：子どもの健康リスクを考える際に、両親（家庭）は重要な役割を担っていると考えるが、近年、家庭の教育力の低下なども指摘されており、社会経済的状態によっては、両親が子どもの健康を守ることが困難な家庭も少なくない。子どもの日常生活の大部分を占める学校においては、保健・体育の授業等が主たる健康教育の場となるが、学校保健のキーパーソンである養護教諭が授業を行う機会は十分とは言えず、専門的知識を要する健康課題についての指導にも限界がある。また、地域の教育力が以前と比べて低下していることも懸念される。現代の子どもが接する大人（年長者）は、家族や学校の先生のみといった限られた環境下にあり、異なる年代の地域住民とふれ合う機会の必要性も指摘された。これらの社会的背景が、子どものセルフエスティームの低下と関連している可能性がある。

課題解決案：現在の子どもをとりまく健康課題は多様化しており、下記のように家庭・学校・地域の連携と協同が必要と思われる。さらに、行政、企業、NPOなどの機関が支援することにより、これらの連携を円滑・維持することが可能になると考えられる。また、子ども自身が主体性を持って、学び、考え、問題を解決することができるような学習の場を提供することにより、将来、自分自身の健康を守る力を備えることが期待できる。

